

個人競技シューティングの規則

1. 競技エリア：使用される競技エリアは競技規則(第 5 条およびアトリエ1～5)にあるテランである。テランにはビュットやブールの置かれる直径1メートルのターゲットサークルが1つ、それから標的球と障害球が置かれたターゲットサークルの先端から6m、7m、8m、9mの距離にある、ティルールの立ち位置となる50cmサークルが4つある。通常は準々決勝からティルール同士が対戦するために、テランはこのデモンストレーション競技に見合った横幅がとられる。

2. 標的球と障害球：釘またはペグで固定されるか、地面に描いた内径1mのターゲットサークル上に、アトリエ1～5に示されているように設置される。最低2球ある標的球と障害球の外縁と外縁の間隔は、アトリエ3以外は10cmである。アトリエ3については、標的球と障害球の間隔が3cmである。標的球は常にターゲットサークルの中心に置かれる。このターゲットサークルの中心部は、ティルールの立ち位置であるそれぞれのサークルの正面先端から6½m、7½m、8½m、9½mである。ターゲットビュットはティルールの立ち位置から見て前方、ターゲットサークル境界線の先端から20cmに置かれる。従って、その距離は6m20cm、7m20cm、8m20cm、9m20cmである。

3. 使用される用具：

- a) アトリエ1～4の標的球。直径 74mm、重量 700gで、ストライプなし、淡色。
- b) アトリエ5の標的ビュット。直径はアトリエ2のビュットに同じ。淡色。
- c) アトリエ3と4の障害球。仕様は a)に同じで、濃い色のもの。
- d) アトリエ2の 障害ビュット。直径はアトリエ2のビュットに同じ、濃い色のもの。
- e) ペグか釘付属の直径1mのターゲットサークル計4(4レーン分)。
- f) ペグか釘付属の直径約50cmのサークル計16(4レーン分)。
- g) ターゲットサークルの中心を示したり、標的球、障害球を置くための釘やコルク栓。

標的球、障害球の直径も重量も変更は可能である。ただし、大会で使用される標的球、障害球は全て同一規格のものとする。

4. ティールの有効性:

ティールは、標的球と障害球が置かれているターゲットサークル内にボールが着地した時に有効である。

スコア1点-標的球を規則通りにティールし、標的球がサークル内に残っている場合。

- アトリエ2と4については、標的球やティールしたボールがどこにありとも、障害球にティールして戻ってきたボールが当たってしまった場合。
- アトリエ3については、ティールしたボールがまず標的球に当たり、それから1つ、または2つの障害球に当たった場合。
- アトリエ5については、ティールしたボールが標的ビュットを当てたが、ビュットが元々あった位置に残った場合。

スコア3点-標的球を規則通りにティールして、ターゲットサークル内から完全に出した場合。これはアトリエ1、2、3、4に適用される。ただし、アトリエ2、3、4については障害球を動かしてはならない。

- アトリエ5については、標的ビュットを当てたが、ビュットがターゲットサークルから外に出なかった場合。

スコア5点-ティールで投げられたボールが標的球、障害球の置かれているターゲットサークル内に残った場合(カロー)。これはアトリエ1、2、3、4に適用される。ただし、アトリエ2、3、4については障害球を動かしてはならない。

- アトリエ5については、標的ビュットが規則通りに当てられ、そのビュットの置かれていたターゲットサークルから外に出た場合。

1試合の最高得点は100点

5. 競技の実施について: ティールールは2回の予選が行われる競技エリアでアトリエ1-5に従って20投を行う。予選1回戦では、準々決勝に進む上位4名を確定し、この後の予選2回戦に進む1回戦5位~20位の16名も決める。

予選2回戦では、やはり準々決勝に進む上位4名を確定する。トリプレット選手権大会の時間と重ならないように、大会本部は2回の予選試合の実施時間を割り振ることになる。

シューティングの際の投球間隔として認められている時間は30秒である。審判員一名がスコアーを採り、ティールールのチームメイトの一人が標的球・障害球のセッティングをする。準々決勝からの試合では、二人のティールールによる対戦形式となる。従って、二人のティールールのいる並列した2つのテランで、同時に対戦することになる。

アトリエ1の6mからアトリエ5の9mまで、一投一投を対戦相手と交互に投球する。投球時間は最大30秒である。対戦は予選1回戦1位と2回戦4位、予選1回戦2位と2回戦3位、予選1回戦3位と2回戦2位、予選1回戦4位と2回戦1位という組み合わせとする。

準決勝では、準々決勝の1位が4位と、2位が3位と対戦する。決勝戦は二人の競技者が同時に対戦することになる。

二者対戦における投球順は上位者からということになる。1回戦で4名が同点だった場合には、まず一投で5得点した回数、次に3得点の回数で上位者を決定する。

予選2回戦へ進む16人の競技資格者については、同点があった場合、得点と同じであったという結果を尊重して、競技資格者を増やすことができる。予選2回戦目の上位4名の決定については、予選1回戦の上位4名と同じ手順となる。

2者が対戦する方式については、通常準々決勝からとなる。この二者対戦で同順位であった場合については、各アトリエの7mの標的に対してのみ連続で5投球し、新たな対戦の得点を最高25点とする。再々度同順位の場合、同じ手順で繰り返す。

標的球や障害球を元の位置に戻すにあたっては、ティールールからの指名を受けたチームメイトたちがその責を負う。

得点結果をスコアーに知らせるために、審判員はテラン毎に一人必要である。加えて、審判員一人か役員一人がティールールのサークルの立ち位置をチェックすることになる。(2つのテランに審判員か役員が1名)

さらに、テラン毎に一人のスコアーがいることになる。1テランに必要な

人員は3名である。2つのテランを使って対戦する場合は4名。

6. **シューティング競技への出場申し込み:** 一か国、一地域に1名のみ。これは申し込む権利がある世界選手権トリプレット競技出場者に限られるが、世界選手権に参加するチームに所属せずにその国、地域を代表する資格のある者についてはこの限りではない。
7. **賞およびタイトル:** 上位4名にメダル(銅2名)が授与され、優勝者には世界チャンピオンのシャツが与えられる。これは国際連盟から表彰台で渡される。優勝者のために国旗が掲揚され、国歌が演奏される。
8. **競技中に突発事故が起きた場合:** (停電、雷雨、迷惑な示威行動《物を投げる行為やレーザー光線照射》、競技者が直接事故に巻き込まれていなくとも、試合は中止されねばならない。なお、試合はできるだけ早く、同じ競技者によりアトリエ1の競技から再開されねばならない。
9. **遅刻:** 最初の呼び出しでは、競技者は競技エリアに入るのに5分間の猶予がある。不在により2回目の呼び出しを受けた場合、5点のペナルティを科せられて試合を始めることになる。もし、2回目の呼び出し後、5分たっても現れなければ敗退となる。

2007年 パタヤ版

【参考】

